伊丹市文化財ボランティアの会
火曜会通信

第62号
発行日 :平成26年 8月 1 日
発 行 :伊丹市文化財ボランティアの会
発行所 :伊丹市千僧1丁目1番地
伊丹市教育委員会事務局内

～ 忙しいはず ガイド実績 ～

4,5,6月で昨年度１年分

果たして5月、NHK大河ドラマ「軍師 官兵衛」で官兵衛が有岡城の“土牢”に幽閉される場面が放映されると、ガイド要請がピークを迎えました。

例えば5月9日（金）午後には3組、計117名のガイド要請があり、金曜班7名が手分けして対応しました。10日（土）は神戸から180名の大人数の申込みがあり、水曜班、土曜班あわせて10名を動員しました。また22日（木）には午前・午後に1組ずつ2団体、合計148名のガイド要請があり、木曜班7名が掛持ちで対応しました。

有岡城跡で大人数団体のガイド

4月のガイド実績人数は475名、5月、6月は950名、373名を数えました。この3か月間の合計は1,798名であり、これは25年度の年間ガイド実績1,829名とほぼ等しく、昨年度1年分のガイド実績人数を3か月でこなしたことになります。

また官兵衛ブーム以前の23年度、24年度年間実績がそれぞれ1,022名、1,163名ですから、今年5月1か月間の実績950名はこれらの年度のほぼ1年分に相当します。

しかし、さすがの官兵衛人気も7月に入ると一服状態。暑さが加わりガイド依頼も昨年並みに落着きました。やれやれ一安心、皆さんどうもご苦労様でした。 （松田 記）

楽しみながらガイド活動を

水曜班 中尾由紀子

入会の頃

私が入会した当初は、旧岡田家の貼り付け当番をして、まずは旧岡田家のガイドに慣れることだと心に決めました。

多くの人前でとてもガイドをする自信はなく自分から「やります」とは言えませんでした。

3年目の平成23年9月、水曜班で《神津地域の文化財巡り》を計画し、何人かが分担してガイドをしました。その経験が強烈に心に残り、ガイドをやってみようというきっかけになったように思います。

伊丹市文化財ボランティアの会では、旧岡田家・石橋家や郷町内・旧西国街道など、市内外から訪問される人たちに文化財のガイドを行っています。
市内の史跡・文化財のガイドについてのお問い合わせは、伊丹市社会教育課までお願いします。 （☎:072-784-8090）

班の取り組み

その頃から、「誰もが自信をもってガイドできるように練習をしてはどうか」と声が上がりました。そんな声を受けて、平成24年度から2年間にわたり、月１回程度、水曜班でガイド研修を実施しました。自分から「やります」と申し出て、2～3人が現地でガイドをします。

参加者は客になって聞き、グループリーダーや先輩会員から時間、声の大きさ、間の取り方、内容、記憶することなどの指導・助言を受けて研修を深めます。できるだけ多くの文化財に出向き、また同じ文化財を二度行うなど、充実した研修ができ、自信につながったと思います。今年に入ってガイド要請が急増ガイドをする人は偏りがちになりますが、進んで「やります」という声を聞くと、研修の成果を感じます。

最近のガイド実践

ガイド要請を受けるとまず、コースの内容や時間等の希望を要請者に聞き、簡単に打合わせをします。それを受けてガイドする者が、各文化財のガイド分担や説明時間、歩くコース、トイレ休憩、訪問先への事前連絡準備物等を確認し合います。そして各自が説明時間を考慮して、内容や資料等を準備してガイドを行いました。

班から出た声

多くの団体を受け入れてみると、人数や年齢が違い、マナー等のレベルもいろいろです

大事な文化財ですから、「見せていただく」「お参りをさせていただく」といった気持ちが大切ではないかと思います。

そこで、スタートする前に、挨拶、自己紹介に加えて、交通ルールや見学マナーについてお願いをしています。また、お寺で行事がある時は外から見て説明をする、中では写真を撮らない、できるだけ公的施設のトイレを使用する等々、迷惑をかけないよう、また安全にも気を配りながら、伊丹を訪れた方に満足していただけるガイドを心がけています。

今後は

ガイドを何回経験しても内容を忘れてしまい、つい説明資料に頼ってしまいます。やはりガイドを数多く重ねて、慣れることが大事ではないでしょうか。

墨染寺境内でガイド研修

そこで、今年度もガイド研修を続けることになり、5月28日（水）に墨染寺、6月25日（水）三軒寺、7月23日（水）旧石橋家のガイド研修を終えました。「継続は力なり」、グループ研修やガイド経験を積むことで自信を持ち、楽しみながらガイドができればと思います。

わたくし流 ガイドのポイント

木曜班 松田孝雄

皆さんどちらから

ガイド受付票には、どちらの団体であるか記載していますが、ガイドを始める切り出しとして、「皆さん今日はどちらからお越しですか伊丹は初めてですか」と投げかける。

伊丹についてどの程度ご存知かを探るためである。もっとも伊丹在住であっても、伊丹の文化・歴史を殆ど知らないと言われる人もいる。阪神間に住んでいるが、伊丹で知っているのは飛行場と免許更新センターぐらいと言われる方が多い。兵庫、大阪以外から来られる方の中には大阪空港の連想で、伊丹市を大阪府と思っている人もいる。伊丹市は兵庫県ですよ。

視覚に訴える

「東西約 0.8km、南北に約 1.7kmの琵琶湖の形をした範囲を堀と土塁で囲んで防備した惣構えは・・・・」と地図上で惣構えを説明しても、なかなか実感を伴わないし退屈である。やはり現地を見てもらうのが一番です。荒村寺を案内するときに、東側のJR線までちよっと足を運んで、電車の屋根よりも高い手前側との段差を見てもらう。

荒村寺附近　ＪＲ線との段差

法厳寺の大クスノキのガイド時に、三軒寺広場と西側商店街との段差に注目してもらう

「惣構えはこのように地形を上手く利用して築かれています」と説明すれば、「なるほど」と納得して頂ける。

時の経過を関連づける

「岡田家の建築は延宝2年（1674 年）・・・」と年号を示すだけの説明で終わらず、有岡城の落城は天正7年（1579 年）ですから、「落城のおよそ100年後です」とダメ押しする。

城跡はキリギリスが鳴く侘しい草むらの丘のままで放置され、一方焼け残った町屋は酒造業を中心に繁栄、その初期の時代に建てられたのが岡田家です・・・。

岡田家の所有者は変遷し、建物は増改築がされていますが、代々受け継がれた酒造りは、ほんの30年前まで続いていました。

法厳寺の大クスノキは50年前の調査時で樹齢500年と推定されました。すると今から435年前の有岡落城時には、すでに樹齢100年を越える大木として、落城時の混乱を体験？していたことになります。

お客さんも様々

ガイドを依頼される団体も様々です。歴史文化に大いに興味のある方々、『歩き』が主体で文化財にはあまり関心がない団体、午前中は三木城、午後は有岡城と明確に的を絞って見学される方等。

皆様のニーズを把握して臨機応変に対応できるように、それには経験を積み、見聞を広めておくことが大事であると思っています。

ガイドに対する取組み

金曜班　永野　昭一

金曜班ではガイドコースの全行程を一人で案内出来る人は少数につき、要請のある都度、みんなで和気藹々（あいあい）と話し合って担当決めをしています。

ご案内に際しては、お客様の反応を見ながら臨機応変に対応するように心掛けています。ある時、歩き慣れないお客様が多くおられ、予定の「辻の碑」まで行くことが出来ず、「伊丹坂」で打ち上げて引き返したといったこともありました。

私たちの説明に対して「ああ、そうか」「フムフム」と相槌を打って反応を示していただける時は説明の遣り甲斐もありますが、何の反応も無い時はガッカリ。そんな時には説明も短時間に省略します。

中には、やたらと神社仏閣に詳しい人に出会うことがあります。そのような方が得々と自説を述べられるのには閉口しますが、そんな時には素直に「勉強になりました。ありがとうございます」とお礼を述べ、あえて反論、弁明をしないように努めています。

また、私たち複数人がご案内する時、担当者が説明している最中に待機者が仲間内やお客様との間で私語を交わしたり、担当者を無視してお客様に説明する、といった光景を目にすることがあります。これは良くないですね。担当者が説明している時は私語を慎み、お客様と一緒に静かに傾聴する態度が必要ではないでしょうか。

そして、何よりもうれしい事は、終わった時にお客様からいただく感謝の言葉です。

「伊丹を見直した」とか「また友人と一緒に訪ねたい」などと言っていただけたらガイド冥利に尽きます。

ところで、最近、岡田家で困るのは、やたらと音楽会や展示会などの催しが開催されることです。市の方針で、やむを得ないのかも知れませんが、音楽会の時には奥の酒蔵を案内することが出来ず、中途半端な説明に終らざるを得なくなり、物足りない。展示会も小規模であれば許されるでしょうが、最近は大きな展示物がドカンと据えられたりして、酒蔵といったイメージが損なわれるのは非常に残念です。

以上、金曜班で話し合った内容を吐露させていただきました。

本泉寺境内でガイド

ここらで一息ぶっちゃけトーク

お話しましょう、ムネノウチ

土曜班 藤原眞佐美

六月に入り、ようやくガイド依頼も一息つきました。この怒涛の数か月間を乗り切ったメンバーが一同に会し、「土曜班・ぶっちゃけトーク」の場を持ちました。

ワイワイと語られたメンバーの忌憚のない意見や提案などを、順不同でご紹介します。

(^▽^)　忙しかったこの数か月を振り返り、「いま印象に残っている出来事はありましたか？」「今後はこうした方がいいと思うことは？」などなど話してください。

(*´３`)　参加者の一人がコース途中でギブアップしたことがあり、参加側の責任者からボランティアに対応を丸投げされたときは難儀したよ。

(*^▽^*)　まち歩きの時に参加者から、「伊丹のイメージといえば、空港と免許更新センターしかなかったが、来てみると文化財が多いのに驚きました」「町並みがとてもきれいですね」「古い町並みに続く緑道が素敵です」などのお声を聞きます。そう言ってもらえると嬉しいですね。

(>_<)　最近、昼食をはさんで午前・午後にわたるガイド依頼が増えています。一日コースの場合、昼食場所をどこにするか、雨天の時はどうするかなど判断に困ることが多いので、本音を言えばお断りしたいです。

(>_<)　それに、一日コースでの昼食代が、ボランティアの自己負担になっているのはおかしいと思います。

(>_<)　依頼者側にボランティアの昼食を現物支給でお願いするが、実際は昼食代として現金を渡される。現金は謝礼とみなし、会計に入れるのが現状で、結局、お昼代は自分で負担することになるのです。我々の昼食代は必要経費として支給してもらいたい。

(?_?)　たしか以前は一日コースの依頼は受けないことになっていたと思うが、今は違うのですか？最近、以前に決めたルールがなし崩しになっていると思います。

(>_<)　ガイド依頼の連絡が、前日や当日に入るというケースもあり、その対応に翻弄されています。ガイド依頼は2週間前までに受けるという取り決めを守ってほしい。

(>_<)　参加者数の急増でヒヤヒヤするのが、町中を歩く時の交通安全面。それを考慮した適正な受け入れ人数を決めてほしい。

(^▽^)　最後に、土曜班からの提案です。幹事会の場で現状の不具合点を話し合い、現状に即したルール作りの検討と改善を是非お願いします。　　（ 完 ）

「黒田官兵衛幽閉の地を考える」を聴講して　　（丹野 記）

7月12日（土）に、六甲山麓遺跡調査会代表で、有岡城跡の発掘調査に鈴木充氏の後を受けて第4次から第22次（1978～86 年）まで担当された浅岡俊夫氏の講演と現地説明会に参加しました。

現地説明会

官兵衛は、『黒田家譜』や、10月28日付で秀吉から官兵衛の叔父小寺休夢に宛てた書状から、11月の有岡落城の際に救出されたことがわかり、幽閉場所も城内の主郭の西北隅とされました。

家臣の栗山善助が泳ぎ渡ったという後ろの溜池は、天保15年（1844 年）伊丹郷町分間絵図に、今のJR伊丹北側の市バスの待機場所の辺りに池状の水溜りとして認められており、第10次調査で内堀の堀切の端部にあたる場所は、深さ2．6mまで発掘しても底を検出できず、防御面から水を溜めた施設が造られていたと想定されています。

有岡城の西北隅というと、村重の時代の石垣が残っている場所になりますが、国鉄伊丹駅前再開発事業計画にともなって始まった発掘調査の第2次調査（1976 年）で検出された石垣は、そのままの状態で埋め戻されました。その後第16次の調査（1984 年）で崩れ落ちていた石を取り除き、石垣の全てを検出した結果、石垣高は入隅の所で2．6mを確認し、それ以上は積まれていなかったこと、東面の石垣がまず積まれ、その後に南面の石垣が積まれたことがわかり、この石垣は土塁を固めるための石垣というよりも、建物用に積まれた石積みとした方がよいのではとされています。

建物の前面を区画する石列は一段で、長さ4mを確認し、その中央に幅80㎝の石列の途切れがあり、そこが入り口で、第2次調査で出土した瓦はその石列の前にずり落ちた状態で出土しているので、建物には瓦が葺かれており、この石積みで囲まれた建物跡が、官兵衛が幽閉された瓦葺き石牢であったとされました。

官兵衛の幽閉がこの場所だとすると、ジメジメした土牢ではなく、待遇もそんなに悪くなかったのではないかと思います。しかし栗山善助が夜に紛れても牢に近づくのはすぐに見つかり、無理なように思います。

瓦葺きの石牢というのもひっかかり、場所の特定は難しいかなと感じました。

主郭西北部の石垣と建物跡

『黒田家譜』・・・黒田家3代藩主光之が家臣貝原益軒に編纂させたもので宝永元年（1704 年）に完成

三成の三献茶は抹茶か煎茶か？

山岸一人

こんにちは、山岸一人です。

さて、さる3月11日の定例会にて実演（百聞は一見にしかず）のとおり、『抹茶』では点てること能わずです！

さりとて当時『煎茶』(今日風の緑茶)はまだ製造されておらず、茶碗に始めの一歩、すなわち茶碗に七八分注ぐ事、叶わず。

よって、この「三献茶」は三成・秀吉の出会いの場面とされる時の142年後に創作された逸話『武将感

状記』の一つだと私めは結論づけます。

長浜駅前 秀吉三成「出会いの像」

この逸話が生まれた背景には二人の遭遇当時、天正二年(1574年)頃、信長が武圧をもって入手した茶道具を見せびらかすために茶会(※茶の湯ではない)が度々行われたことまた秀吉後期の時代から三成が茶会を亭主あるいは客として参加できる経験を積んでいた器量によると思われる。

また「茶を点じて」という表現が抹茶を点てたと誘導させたのでしょう。

三成の「三献茶」に思いを馳せる事は、三成を知る旅となりました。

敗者であるにも関わらず、これほどエピソード(好意的な)が多い武将は他にいないでしょう。島左近の召し抱え、質素な佐和山城形見の茶入の話、処刑場に曳かれる道中での柿の差し入れの話、大将たるあるべき姿(生き延びて再起を図る)等々。

それに比べ映画「利休にたずねよ」の何と酷いこと！思わず笑ってしまいました。

利休以外は皆、脳足りんに描かれていて特に三成、長浜市のボランティアガイドの皆様にとっては屈辱ものでしょう。

どうして「士農工商」の商人利休が聖人のごとく描かれているのですかねえ。

終わりに皆様が憧憬の眼差しを向けている「茶の湯」と、利休が点てていた侘びの「数奇茶」とは全く違うものだと思って下さい。

利休の頃の茶

1. 抹茶は今日の様に黒楽茶碗によくうつる緑色ではない。利休好みの黒楽は緑色を際立たせるためではなかった。
2. 茶碗はグルグル回さない。
   猿回しではない、茶碗には正面などない。
3. 正座などなかった。
4. 「お先に」など誰が言うか。
5. 茶の前の菓子などない。
   ※此の事は今でも分らない、お茶の風味が損なわれるだけと思うが…。
6. 道具の置く位置など決まっていない。
   今日の茶と、明日の茶は景色が違う。
7. 利休曰く「茶の湯に大事の習いはない」
   ※ 今の茶の湯はかたち(作法)ばかり。
   ※ 数奇茶にはきめごとはない。
   ※ ただし「煎茶趣味」には俗にならないというルールがある。

最期のさいごに「古田織部」がおもしろいことを云っているので、紹介すると・・・

「寺院で茶を仏前にそなえることから、茶の湯がうまれてきたとの主張は俗説だと明確にしりぞけ、山上宗二(利休の高弟であったが秀吉に耳と鼻を削がれた上で打首にされる)のいう茶の湯の禅宗起源説も論外だ。」　　＜ 完 ＞

思い出の世界遺産（10）

「インドの3都市･･･デリー･アグラ･ジャイプール」の巻　　山内 富美子

30年以上前に初めてインドを訪れたのは西の端のボンベイ(現ムンバイ)と東の端のカルカッタ(現コルカタ)の2つの都市でした。

今回は首都のデリー、有名なタージ･マハールのあるアグラ、そして城壁に囲まれ、旧市街が見どころのジャイプールの3都市の世界遺産に触れていきます。北インドにあるこれらの3都市は線で結ぶと三角形、すなわちトライアングルを構成する位置にあり、多くの世界遺産や文化遺産が存在しています。

ですから、ゴールデン･トライアングルと呼ばれ、世界中から大勢の観光客が訪れてい

ます。先ず訪れたのは世界遺産タージ・マハールのある**アグラ**の町です。当日は午前4時にホテルを出て、首都のデリーから200kmの距離を列車でアグラの町まで行きました。

アグラの歴史は古く、紀元前3世紀に名前が登場していますが、現在のアグラの基礎が築かれたのは15世紀の半ばで、16世紀半ばには一時期、首都にもなっています。現在のアグラはタージ・マハールを含むムガール時代に建造された壮大な史跡が残り、イスラム文化の香り高い古都として、落ち着きを見せています。

タージ・マハールは、膨大な白の大理石を使い、1631年から22年の歳月をかけて造られたムガール帝国時代の建築の傑作です。広々としたヤムナー河のほとりに建つ、白銀の輝きを放つタージ・マハールは、遠くからもその姿を見渡せる憧れの建物です。この美しい建物は、ムガール帝国シャー・ジャハーンが、亡くなった最愛の妻ムムタズ王妃のために建てた霊廟です。1983年に登録されたこの霊廟は、世界で最も美しく豪華なお墓だと言われています。正門から入ると、豊かな水や緑で彩られ、イスラム教の天界をモチーフしたと言われる泉水と庭園の正面に、タージ・マハールがその完全に左右対称の美しい姿を現わします。

タージ・マハール

世界中から観光客が訪れ、カメラを手にゆっくりとそぞろに歩いています。インドの方は家族連れや一族で来ている人達が多かったです。残念ながらビデオ・カメラは持ち込めませんでした。霊廟内は土足厳禁ですので、白いくつカバーをつけて入りました。霊廟の中では王妃ムムタズ・マハールの石棺が中心におかれ、傍に夫の皇帝シャー・ジャハーンのやや小さめの石棺が並べて置かれています。高さ70mのドームがあるこのタージ・マハールは、全体の規模が横250m、奥行き350mのとても広い敷地の中にあり、左側に赤い砂岩のモスクと、右側に白い大理石の迎賓館もあります。背後には悠々と流れるガンジス河最大の支流であるヤムナー河が流れ雄大な景色が広がっています。皇帝シャー・ジャハーンが、ヤムナー河の対岸に自分の墓を黒の大理石で造る計画をしていましたが、帝位をねらう息子により、アグラ城に幽閉されてしまい、自分の霊廟となる黒いタージは実現せずに幻に終わってしまいました。ですから、タージ・マハールの霊廟の中で、王妃と共に皇帝は眠っています。

アグラのもう一つの世界遺産は、ムガール帝国の全盛期に建てられた**アグラ城**です。

赤い砂岩の壁に守られた堅固な要塞で、歴代皇帝が住んでいた城です。内部には、贅を尽くした個性的な建物が点在しています

広々とした城内には王族の住居や、謁見の間、モスクなどが建てられています。国が傾く程の天文学的な費用をかけて完成させたタージ・マハールを造ったシャー・ジャハーン帝は、アグラ城でも贅を尽くした建物を造営しました。 あまりの散財ぶりを見かねた息子によって城内の八角塔に幽閉されてしまい、そこからはるかに見えるタージ・マハールを眺めながら、生涯を閉じました

アグラ城

アグラから南西37kmのところにファテープル・シークリーと呼ばれる城跡があります。ムガール帝国のアクバル皇帝が遷都先として選んで「勝利の都」と言われましたが、わずか

14 年で捨てられました。5年の歳月をかけて造られた壮大な都城ですが、水不足と猛暑により放棄されました。しかしイスラムとヒンズーの様式を融合した美しい建築様式で独特な建物が多く、今でも保存状態がよいまま残っているので、世界遺産になっています。

（右へ続く）

アグラから西へ 200km程の所に、**ジャイプール**という城壁で囲まれた、旧市街が見所の町があります。ピンク色に塗られた建物が多いのでピンク・シティと呼ばれ、中には風の宮殿や、王宮のシティー・パレス、ジャンタル・マンタルという世界遺産の天文台などがあります。

ジャイプールの象徴的な建物が「風の宮殿」です。姿を見られるのを禁じられていた宮中の女性のために建てられた宮殿で、どの方角からも風が入るように工夫されています

女性たちは、区切られた小部屋の小さな窓から、祝祭の行列や日常の活気あふれる街の様子を、外からは見られないように眺めたといいます。

ジャイプールには、市街から少し離れた丘の上に、巨大な城で世界遺産の**アンベール城**があります。王の居城で外観は武骨ですが、内部は繊細で優美な宮殿です。ここでの名物アトラクションは、象タクシーのパレードです。化粧をほどこし、鮮やかな衣装をまとった象たちが、背中に観光客を乗せて、ふもとから山の上の城までゆっくりと進み、太陽門を通って入城し、城内をパレードします。何十頭ものきらびやかな象たちの行進する光景は壮大で、すばらしいものでした。

アンベール城

首都の**デリー**には、世界遺産が3か所あります。オールド・デリーの中に**ラール・キラー**、別名レッドフォート（赤い砦）と呼ばれる赤い砂岩で築かれた城があります。タージ・マハールを建てたシャー・ジャハーン帝が、アグラからデリーに都をもどして都城を造営したのが、オールド・デリーです。 レッド・フォートの周辺は人と車で混雑していて、かろうじて門の外から写真だけが撮れました。

［町の小さな文化財　第２回］

昆陽寺 兵卒の石像

昆陽寺境内西側に、凱旋記念碑と忠勇義烈頌功碑が並んであり、その前にこれらの碑を守るかのように兵卒の石像が配置されている。凱旋記念碑には明治37、8年の日露戦争において、昆陽村、千僧村、新田中野村、池尻村、寺本村、山田村、野田村堀池村、南野村御願塚村の各村から出征凱旋した計117名の氏名が記されている。これらの10か村は明治22年に猪名野村に合併統合して旧村名は大字名として残されたが、凱旋記念碑には旧村で表示している。

兵卒の石像

当時の軍装で銃を携帯した兵卒の石像は高さ1m余り、表情姿勢の線が硬く、稚拙な感じのする作りである。

昆陽寺境内には、明治44年の大演習に乃木大将が伊丹を訪れたことを記念する『乃木大将記念碑』がある。しかし戦功成し遂げた陸軍大将の記念碑より、無事凱旋を果たしたか、もしくは戦地で斃れた兵卒を刻んだ石像に魅かれるものがある。（松田　記）

ムガール朝文化の集大成といわれるラール・キラーは、要塞として建築された優美な城です。イギリス統治時代には軍事施設となり、今は、インド軍の兵舎などに使用されているため、一般公開されているのは、一部のみです。

ラール・キラー

あと二つの世界遺産は、デリーの南地区サウス・デリーにあります。一つは**フマユーン廟と**いって、ムガール帝国第２代の皇帝フマユーンの霊廟、お墓です。 広大な庭園に建つフマユーン廟は、赤い砂岩と大理石のコントラストが見事な建築物で、タージ・マハールの原形となった建築の傑作です。 色は違っていても、どこかで見たような建物だと感じたのは、タージ・マハールの原形だったからです。フマユーン帝の妃がペルシャ出身で、彼女がフマユーン廟の建築を指示した関係でペルシャとインドの建築様式が融合した、ムガール建築スタイルがここで発祥したのです

廟の中に入ると中央にフマユーン皇帝の眠る墓があり、別の部屋には王妃やその子供たちが眠る石棺が置いてありました。

クトゥブミナール

もう一つの世界遺産は、サウス・デリーにある**クトゥブ・ミナール**と、それをとりまく建築物群です。クトゥブ・ミナールというのは高さが72.5mのインドで最も高いミナレット（尖塔）で、インド最初のイスラム王朝である奴隷王朝が、ヒンドゥ教徒に対して勝利した記念として建てたものです。1192 年から始まって 14 世紀頃までに 5 層目までが、完成したミナレットは、200年近くかかったそうです。クトゥーブ・ミナールの近くには、破壊されたヒンドゥ寺院、ジャイナ寺院の石材を使って建てたモスク、王朝の君主の廟（墓）、イスラム神学校、そして、クトゥーブ・ミナールの 2 倍の高さの塔を建てようとしたが、未完成のままのアラーイーの塔など、見るべき歴史的な建造物が沢山ありました。

あわただしいインドの旅でしたが、予定通り7つの世界遺産とデリー、アグラ、ジャイプールの 3 つの都市をめぐる旅は、終了しました

様々な異文化に触れた充実したインドの世界遺産をめぐる旅でした。　　〈 完 〉

［ガイド豆知識　第１回］

蟇股（かえるまた）

社寺建築などで、頭貫（かしらぬき）または梁（はり）の上、桁との間に配置する山形の部材のこと。本来は上部構造の重量を支えるために取付けられたものであるが、のちには単に装飾としてさまざまに彫刻して破風などにつけられた。装飾の形が蛙の下半身に似ているので、この様に呼ばれている。

写真は三軒寺の1つ正善寺山門（薬医門）の蟇股です。十七世紀前期の様式を示していると言われている。山門の左右2か所にあり、その裏表で計4枚の彫刻による絵柄が施されている。当初は彩色されていたが経年により退色が進み、現在は無彩色の状態である。

正善寺山門の蟇股

想像復元した絵柄が門前に掲示してある。

（松田　記）

活動記録（5月～7月）

定例会 ・5/13(火) ・6/10(火) ・7/8(火)

案内ガイド

・5/3(土)Aコース(東園田町会 尼崎)・5/8(木)緑道Aコース(いつも会 池田)・5/9(金)Aコース(大阪狭山市熟年いきいき 大阪)・Aコース(吹一地区公民館 吹田)・Aコース(シニア自然大学 西宮)・5/10(土)Aコース(神戸市シルバーカレッジ 神戸市)・5/13(火)Aコース(PCクラブ25 豊中)・5/15(木)Aコース(7期歴探クラブ 神戸)・5/16(金)Aコース(双葉南自治会 伊丹)・5/17(土)有岡城(阪急・阪神観光あるき)・5/18(日)Aコース(高岡オールドボーイ 加古川)・5/19(月)Aコース(ラスク会 神戸)・5/20(火)ABコース(天の川 川西)・Aコース(伊丹市まちづくり推進協議会 伊丹)・5/21(水)Aコース(なわて健康ロード 四條畷)・5/22(木)岡田家(岡山セカンドライフくらぶ 岡山)・Aコース(三菱電機OB会 宝塚)・5/23(金)Aコース(桜蔭会兵庫歩こう会 尼崎)・Aコース(歴史一期会 東大阪)・5/24(土)A・Bコース(ふるさとに親しむ会 柏原)・5/25(日)有岡城他(Mos Mos会 尼崎)・5/26(月)Aコース(大阪高齢者大学校 吹田)・5/29(木)Aコース(うれしの友の会 加東)・Aコース(桜台ハイツ歩会 伊丹)・5/30(金)Aコース(大阪高齢者大学校 東大阪)・6/4(水)Aコース(大和会豊中箕面支部 豊中)・Aコース(ガイドボランティア 三木)・6/5(木)有岡城(好古学園大学院 相生)・6/6(金)Dコース(大阪狭山市熟年いきいき 大阪狭山市)・6/7(土)Aコース(大阪社会事業短期大学 伊丹)・Bコース(天王寺散策部 大阪)・6/8(日)Aコース(大阪社会事業短期大学 伊丹)・6/9(月)Aコース(てくてくの会 豊中)・6/11(水)岡田・石橋家(大阪大正区 大阪)・6/17(火)Aコース(高大箕面同窓会 池田)・6/18(水)Aコース(アスカ会 堺市)・6/20(金)有岡城(赤穂プロハスクラブ たつの市)・6/24(火)Aコース(歴探18の会 神戸・6/27(金)Bコース(小田歩こう会 尼崎)・7/5(土)Aコース(大東英語クラブ 大東市)・7/8(火)石橋家(伊丹自衛隊協力会 伊丹)・7/17(木)Aコース(あおぞら 宝塚)・7/18(金)Aコース(有志 姫路)・7/19(土)Aコース(日旅関西OB会ハイキング同好会 明石)

歴史ロマン体験学習支援

・5/10(土)活字印刷を体験しよう ・6/7(土)ポンポン船をつくろう ・7/5(土)楔形文字を活用しよう

有岡城跡の清掃

・5/27(火) ・6/24(火)・ 7/22(火)

今後の予定（8月～10月）

定例会 ・8/12(火) ・9/9(火) ・10/14(火)

案内ガイド・8/21(木)Aコース(歴史をたずねる会 岡山) ・9/12(金)Fコース(大阪狭山市熟年いきいき 大阪狭山市)・10/4(土)Aコース(JALパック 東京) ・10/21(火)Aコース(高大箕面同窓会 池田)

歴史ロマン体験学習支援

・8/2(土)印鑑をつくろう ・9/6(土)ヒエログリフを活用しよう ・10/18(土)鼓をつくろう ・

有岡城跡の清掃

・8/26(火) ・9/23(火) ・10/28(火) 9:00～

編集後期

この5月は1か月で、官兵衛ブームの始まる前のほぼ1年分のガイド人数を消化しました。やれやれと一息ついたら猛暑の始まり、岡田家当番も夏休みに入りました。熱中症にならぬように気を付けて、秋風の吹くまでしばらくは休養しましょう。 (T M)